

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401053		
法人名	有限会社 グループホームふるさとの家		
事業所名	「城下」にしありえ	ユニット名	
所在地	南島原市西有家町龍石1417-1		
自己評価作成日	平成26年12月17日	評価結果市町村受理日	平成27年2月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成27年1月21日	評価確定日	平成27年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた環境の中で、ゆっくりとした時間を過ごすことができる。職員の人数も多く配置することで、利用者一人一人に合ったケアを実践している。また、近隣の小学校との交流や地域行事に積極的に参加することで、毎日が潤いのある明るい生活ができるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“「城下」にしありえ”では、外で野鳥の鳴き声を聴きながら食事をしたり、筍掘りやわらび採り等もされている。四季折々の行事や慣わしを継続し、毎日のドライブも日課となっている。家族との関係も大切にされており、電話のやり取りや担当職員からのお手紙を郵送したり、管理者が自宅を訪問し、家族の体調確認も続けている。地域の方との交流も日常で、地域の方の要望で設置したホームの敷地内の自動販売機は重宝されており、お墓参りをされた方が自動販売機で飲み物を買ひ、ホームのベンチで休まれている。野菜を持ってきて下さる方も多く、昔ながらの助け合いが続けられている。龍石ふれあい市では小学生と鯛焼きやクレープ作りを行うなど、長年、地元の小学校との交流を続けてきたが、28年度で閉校になることから、今後の地域交流の在り方を検討している。管理者と職員全員の結束が固く、“地域密着”と言う視点を大切に、今後もホームでできる事を色々と企画していければと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を意識できるように、荘内に掲示している。理念を共通理解したうえで利用者に対する介護実践するように努力している。	「老いても 障害を持っても 当たり前 自分らしく普通に暮らしたい」と言う理念の基、昔からされていた事を“当たり前”にできる環境が作られている。洗濯物や食材切り、買い物や筍堀りなども行われ、長崎や大村へのドライブも楽しんでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事や小学校行事など、利用者・職員で参加している。	長野保育園の園児が毎年来て下さり、お遊戯をして下さっている。ボランティアの方も踊りを披露して下さい、ご利用者の楽しみとなっている。小学校(2か所)のお祭りやマラソン大会の応援をしたり、中学生の福祉体験学習では一緒にお弁当を作り、ピクニックを楽しみました。	28年度で小学校が閉校する。今後も閉校する小学校の体育館などを活用し、地域の方々と集う企画を検討すると共に、地域密着としてのホームの役割を発揮し、地域住民の方々に必要な支援を続けていきたいと考えている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事等に参加することにより、認知症の方が毎日を楽しく当たり前で生き生きと暮らしていけることを体感してもらい、また介護に対するご相談もお受けしたことがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の様子や状態、サービスの取り組みなどを報告し、各委員から意見を聞きサービスの向上につなげている。	2月に1回開催している。町内会長、地域包括の職員、家族が参加して下さい、行事報告と共に、災害対策や地域行事などの打ち合わせもしている。地域の情報交換もできており、欠席者には報告書を持参している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政主体の研修会に進んで参加している	管理者が広域に出向き、施設内容の変更などの手続きをしている。更新申請等は役場に行かれており、役場の方とも顔馴染みである。地域包括の方とも情報交換を続けており、地域の方のお困り事を相談した時も、親身に対応して下さい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は理由にとわず行わないという方針が周知されている。身体拘束廃止委員会を中心に日々のケアの振り返りや評価修正を行い、身体拘束を行わないケアに一致協力して行っている。	身体拘束虐待防止委員会では毎月の目標を決めており、評価も行い、日々のケアに取り組まれている。ご利用者は穏やかに過ごされており、“身体拘束の無い”生活を続けている。時に感情が不安定になる時も原因を把握しており、個別の対応を続けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員を筆頭に全職員で声掛け会いながら取り組んでいる。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への参加をすることにより、必要性を関係者と話し合い活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が利用者やご家族に納得いかれるまで丁寧に話をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに職員が要望や意見を必ず聞くようにしている。また運営推進会議で家族代表の意見も聞くようにしている。	面会時に日々の体調や暮らしぶりを報告している。“城下たより”を作成し、担当者から手書きのお手紙も郵送している。入院時に「ここ(城下)に帰れるのか」と言う家族の心配があり、医療連携も図りながら、ホームで対応できるように体制を整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や普段出た話の内容を管理者会議で報告し、円滑に運営できるようにしている。	職員からの要望を大切にしており、最善策を検討している。日々の行事予定を共有するために、ホワイトボードに記載する等の方法が取られ、職員全員が気持ちよく働けるように努めている。各担当の係(行事、ケア、美化、身体拘束等)を決め、日々実践して頂いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状況を把握され、向上心を持って働けるように努めてくださっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修会参加、費用の助成及び負担を行っている。代表自身も会議での意見交換を機会とし自身での教育等も行われている。勤務と勉強が両立できるよう職場での勤務状況へも配慮することが浸透している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会・スポーツ大会等相互の行事への参加などを通じて広く交流する機会と活動により、お互いを知り学びあうことによって、人間としての成長が図られ、ひいては質の高いケアの提供やサービスの向上につながっている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人やご家族から聞き出し、安心を確保するための関係づくり努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていることや不安、入所を機に要望したいことなどを積極的に聴取し、徐々にいろいろなことを素直に言えるような関係となるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族とコミュニケーションをとり基本情報収集アセスメントを実施し今最も必要とされているサービスを色々な方法から考え支援する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	頼ったり頼られたりしながらの関係を保ち同じ環境で共に暮らしていると思っていただけるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お知らせする手紙や健康面の維持管理については電話連絡により情報交換を行っている。その中で家族の存在の重要性とともに共に支えあうという思いを伝えながら関係を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人に気軽に会いに行けるよう、また昔行っていた場所などに行けるよう支援している。	思い出の場所をドライブし、昔話に花が咲いている。お墓の場所も教えて下さり、歩けない方は車の中からお参りしている。「ここが私の柿畑」と教えて下さり、他の利用者も柿を採り、干し柿作りを楽しまれた。馴染みのあんこ屋に行き、美味しいお餅を食べる事ができた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士はその関係が続くようにスタッフがさりげなく誘導し和やかに過ごせるよう配慮している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設の行事への案内をしたり、外出などの機会にはあつて状況を聞いたり、気軽に來ていただけるようにお誘いをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者から気軽に希望や要望が言える環境作りをととのえ希望に添えるようにしている。	「自宅の仏さんに参りたい」等の要望を伺い、家族の協力も頂きながら願いを叶えている。管理者が自宅訪問し、家族の要望を伺う機会も作られ、遠方の方は電話で情報交換している。意思疎通が難しい方は生活歴も大切にしており、表情などで気持ちを汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報や本人とのコミュニケーションにより把握している傍らご家族からも情報を得て、ホームの中でも今までの暮らし方や行動をできる限り続けられるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の把握に関しては、定期のバイタル表を参考にし異常の早期発見に努めている。また食事摂取状態や表情、会話時の反応や行動などにより総合的に把握するように心がけつつ記録や申し送り等でも状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制で日々の記録の情報を基に家族の意向も取り入れながら作成をする。毎月のモニタリング及び評価を行い、職員会議でも情報交換を行いながら現状に即した介護計画を作成している。	ご本人の意向と共に職員全員の意見を反映し、介護計画を作成している。介護日誌の“キーワード”欄に計画内容を転記し、日々の実践状況を記録している。体調変化時は計画を見直し、常に“何故?”と言う視点で、行動の背景にある原因に目を向けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常記録に気づきや様子を記入した、連絡ノートを使用したりしながら職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や家庭での行事への参加支援は利用者の体調に合わせ柔軟に対応するよう努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族や地域の方々に会うのは勿論のこと、行きつけのお店などへ出かけたりボランティアとの交流も積極的に受け入れ活気に満ちた心豊かな生活を送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはかかりつけ医にお願いしている。かかりつけがない場合は、当施設の協力機関にお願いしている。	職員が通院介助をしており、必要時は家族も同席し、受診結果の共有をしている。系列ホームの看護師の訪問(毎週)があり、往診も受けられ、ホーム内で点滴や喀痰吸引も行われている。職員の観察力も高まり、異常の早期発見ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師や協力病院の看護師になんでも相談できる環境ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医、担当看護師との情報交換により利用者の持つ疾病のコントロールや治療継続の支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の面会時や利用者の急変時または様態変化があった場合はすぐに報告し、今後考えられる事態やご家族・本人の意向をともに相談し、Drに話し、今後の支援に取り組んでいる。	希望に応じて終末期ケアが行われている。医療の希望も把握し、24時間体制で主治医と代表、訪問看護師との連携が図られている。体調に応じ、家族間の話し合いをして頂き、今後の方針の検討が行われている。管理者が、ご本人の個々の不安「葬式やお墓」に寄り添い、「最後まで看るから」と伝え、安心して頂いている。	ご利用者も高齢化し、重度化や終末期の時期を迎える方がおられる。今後も更に、安楽・安心な環境を家族と考える機会を作り、終末期における家族の具体的な対応方法を共有していきたいと考えている。代表(看護師)等からのアドバイスも頂く予定にしている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故に備え、ヒヤリハットで上がった課題やマニュアル等を生かして職員間で常に話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	地域合同避難訓練時に地震や水害や土砂災害があった場合の話し合いをしている。近隣の消防団がいち早く駆けつけてくださるよう話している。	2ヶ月毎に自主訓練をしている。毎年11月9日(119の日)に、消防署・消防団(20人)・地域住民と夜間想定訓練が行われ、消防団の方が避難誘導をして下さった。AEDの訓練も行われ、自然災害(地震、水害等)を想定した訓練もしている。リビングのストーブは周囲に囲いがされており、遅出が必ず消している。災害に備え、災害バックや水、米、手動式ラジオ等を準備している。	

自己	外部		自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者各自の人格や性格を理解し、対応時やケア提供時は言葉遣いや態度など利用者個々を尊敬の念と愛情を持って接するよう努めている。	ご本人が嫌がる事には触れず、職員は優しい気持ちで接するようにしている。「ちょっと待って」などの言葉は使わず、「待って」の前に理由を伝えており、失禁時は耳元で声かけし、小さな声で排泄状況の確認をしている。個人情報の管理も徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に自己決定ができる場面を多く作るようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の様子や要望を聞き、本人がしたいようにできる支援をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でされる方は本人にまかせている。できない方は本人に問いながらさせてもらっている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を感じられる献立を考え、可能な限り健康と嗜好との両立を図っている。利用者の好みも取り入れながらおいしく楽しい食事を心がけている。	ご利用者と筍掘りやわらび採りに出かけている。ごぼうそぎ等もして下さり、だご汁や混ぜご飯、素麺汁等も好評である。2日おきに来られる魚屋の移動販売もあり、新鮮な魚を食べられている。ホットプレートを使い、味噌入りの焼きだご等も作られ、素麺流しも楽しめた。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬のものを使うように心がけ、栄養の偏らない内容と各自の食事摂取に関する自立度にあつた形態を工夫するようにしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず歯磨きを行い、自分でできられない方は職員により口腔ケアが支援されている。			

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者ごとに排泄チェック表を利用し、パターンを把握して誘導を行っている。	身長や体調に応じて3パターンのトイレがあり、排泄が自立している方もおられる。必要に応じて個別の誘導を行い、毎日の清拭も続けている。入院時にオムツ(カテーテル)だった方を、リハビリパンツに変更できた方もおられる。家族の負担を考え、1カ月のパット等の使用量の振り返りも行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容に野菜や食物繊維を多く取り入れまた運動により腸の蠕動を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は一人ひとり入って行っている。体調やタイミングに合わせて行っている。	お風呂好きな方が多く、希望時は毎日の入浴が可能である。広いお風呂であり、湯船の階段を降りる時は職員が支えている。2人で仲良く入浴される方もおられ、職員も一緒に食べ物等の会話が弾んでいる。季節に応じて菖蒲湯も行い、職員の自宅で収穫した柚子湯を楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や希望に沿って自室や居間で過ごしていただいている。夜間の睡眠を安定して得られるように昼間を活動的に過ごしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の疾患に合わせて処方されている薬剤の内容及び副作用等の理解をしたうえで、各自の身体能力や理解度に合わせて支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物やドライブ等本人が好まれるものを把握し、十分な情報収集とご本人の意向を重視してレクを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の体調を考慮したうえでのドライブや買い物などに出かけている。季節の花(桜・コスモス・紅葉)等の見物に遠出することもある。	天気の良い日は毎日外出している。島原半島のみならず、長崎へのドライブも行われ、大村では飛行機の見学を楽しまれた。四季折々の花見を行い、島原外港のイルミネーション見学、小浜の足湯にも行かれている。「城下」公園マップを作成し、トイレの場所等も記載している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を本人で持たれている方はいないが、買い物等に一緒に出掛け、支払いをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に気軽に電話してもらったり、本人にもかけてもらう支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花を飾ったり、わかりやすい場所に部屋の名前を掲示したりしている。	ホームの入口に自動販売機があり、地域の方が利用している。玄関や廊下には沢山の写真があり、職員と一緒に眺めている。リビングから畑の野菜を眺める事ができ、風船バレーなどを楽しんでいる。職員が自宅から持参した花や、ホームの庭に咲いている花を年中活かしており、季節を感じる事ができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつも居間にて過ごされている。自分の席が決まっており、そこで過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族が来られても気楽に過ごせるような空間作りを工夫して作っている。	各居室は広く、眺めも良い。洋室(5つ)と和室(4つ)があり、箆箆やテーブル、座イス等を持ち込まれ、家族の写真や日本人形なども飾られている。家族が持ってこられた観葉植物も大きくなり、一緒に水やりをしている。ヒヤリハットの視点を強化し、ベッドや箆箆の位置の検討も行われた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	可能な限り障害物を除き、室内は広く安全に使えるように配置している。トイレには目印を掲示し迷うことが内容に配慮している。		